

2022年9月30日(金)10:00～CRTスタジオで収録

感動を与えるスピーチ・授業をするには
—原稿を練り上げ、心を込めて読む練習をすること—

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) 9月28日(水)の午後、都内で安倍首相のスピーチライターをおつとめになった谷口智弘氏の講演をお聞きし、ディスカッションをする機会がありました。

*谷口氏とは、20年前に、よく国際会議で一緒し、谷口氏は、どのような会合でも、真っ先に手を上げ、質問や発言をされていました。「なぜ林さんは、せっかく国際会議に参加しているのに、日本の国益を代表して発言しないのか」と、ご教授いただきました。以来、意を決し、「国益とは何か」を考えつつ、必ず1回以上は、内容をメモにまとめてから発言するようにいたしました。

(2) 谷口氏は、菅元首相の依頼で、安倍首相の国葬前日、スピーチ(弔辞)の練習に立ち会ったことをお聞きしました。

(3) 菅元首相の弔辞は、心のこもったおので多くの参加者、国民の感動をよぶものでした。「感動の弔辞」は、「心を込めて演説原稿をよむ練習を、繰り返した」たまものであることを知りました。なぜ人々が感動したのか。菅元首相が心をこめて練習を繰り返したためです。



2. (1) 安倍首相が、アメリカ議会で、大好評を博した演説をした際には、安倍首相の指示でスピーチライターの谷口氏は1か月かけ、19回スピーチ原稿を書き直したそうです。1か月かけ原稿が完成させた後、安倍首相は、次の1か月間、明恵夫人を前に、毎日数時間、英語の達人の谷口氏のCDを参考に「心を込めて演説演説を、英語で読む練習を繰り返した」そうです。その結果、米国議会で大喝采をあげ、英語での演説終了後、あらかじめ配布済みの演説(スピーチ)原稿に、安倍首相にサインを求める議員が、列をなしたそうです。

(2) 政治家の演説で大切なのは、まずは、何を話すべきかよく考え、考えを練り上げて「演説原稿を書き上げる」こと。次に、「心を込めて演説原稿を読む練習を繰り返す」ことに尽きるようです。

(3) スピーチで大切なのは「原稿を書き上げること」と、「原稿を読むこと」の2つです。読むときには「心を込めて行う」。そのために、「心を込めて原稿を読む練習を繰り返す」。「練習してのみ、感動が生まれる」



3. (1) 授業をする際も同様です。「レッスンプランを練り上げ、確定」「レッスンプランを心をこめ読む練習」をどれだけするかで、感動的な授業が成立すると考えます。

(2) 「授業内容を示すレッスンプランを書き上げる」「レッスンプランを心をこめ読む練習を、授業直前まで、し続ける」

(3) 様々な会合で「スピーチ（演説／報告）をする場合も同様です。「何度も訂正を繰り返し、スピーチの内容を練り上げ、発言原稿を書き上げる」「原稿を心をこめ読む練習をし続ける」



4. スピーチや授業の内容を「練りに練り」「洗練された」原稿を書く。授業内容を「磨きこみ」「洗練さす」。「磨きこみ」と「洗練」。が大事。あとは、その「原稿を心をこめて読む練習」して初めて「感動を呼ぶ」。

5. (1) 夕刻は、学究社 (ena) の「創立 50 周年記念式典」にお招きいただきましたので、参加させていただきました。

(2) ご来賓の挨拶は、菅前首相、小池都知事（ビデオメッセージ）、乾杯のご挨拶は、下村・元文部大臣がなさいました。

(3) この 3 人の著名な政治家のご挨拶は、「政治家として、原稿をこころを込めて読む練習を繰り返し続ける」ことで培われた、感動的な、素晴らしい演説（スピーチ）でした。「練習は不可能を可能にする」を実感した一日でした。